



新鑄

椿説弓張月

續編
卷四

13
2945
16



13
2945
16

鎮西八郎椿説弓張月續編卷之四
爲朝外傳

吉野
屋田

第三十八回

東都

曲亭主人編次

一夜の夫婦永訖を守れ

鏡中の幻術骨肉分割

寧王女廉夫人を中城に囚籠られ。嬾と月日をあけ暮し。後
隙ゆく駒の足掻速く。又五七年の春秋を過し。かり後
中婦君利勇亦も憚れとこらふしとやとひらん毒計を逞くして
逼り苦しむもせむと王女ハ元来王位を承けんとす。其の
後母をくつて只困雅ハ一生涯を。おらんとの之原ひあつて。寔
小才多の備なれ。いへがさる。孝公いとあつて。はまや。あつて。編
冤枉ハ罹ア。薄氷踏よ。るも。さ。危。脱。さ。へ。り。こ。と。併

春説弓張月續編卷之四

昭和九年七月九日

毛國典のりくにが誠忠まことちゆうにて浦進うらしんとてなほあり。それ人嫌忌いとせうの中うちにこそ
 おけり。親おやくんとあふざりし。ある夜更よる園うゑんて潜ひそ中うちに母はは門かどを誰たれと問とひし
 まの母はは毛國典のりくになりとまうし。王女おんむすめも夫人ふじんもいとつらしくおかせし。か
 ちがて嘆なげび入いりて對面たいめんあるふ。毛國典のりくにの出居いせのかと再また寤さきてはくし。こ
 へん入いりてなほ。席薦せきせんまじも。云い下くだは断離だんりて煤すすびくる。几帳きちやう申まをの刻とき
 へとやとぬらんとおぼし。緋ひの袴はかまを掛かけられし。拂はらひもあへぬ紙窓しすまと
 こが家いへがほなれ蜘蛛くまの網あみは。昨夜あやの雨あめ降ふりをわけて玉簾たまれんともえり
 めれど。網代あみしろ天井てんかうの漏もれ痕あとは。月つきの暈うきとらふりめれり。
 貴たかれたる世子よしののみこあておのせし。過世すしあてかくの世よ母はは捐なられし。痛いたま
 るとよとあふ涙なみだ先まして。あうさるもはらりぬ。當下このとき王女おんむすめと
 真鶴まがづと茶ちやを賜たまらせ。按司あんじ毛國典のりくにをいひ。小夜こよひ深ふかくあれる。事ことあつて

うと。同どう多た入いる。毛國典のりくに小膝こひざをすめ。さんい益ひきも人ひとめりあせて。明白めいぱく
 とまのりもほご。竊ひそか思おもひをいへあげなやと。驚おどろかす。末すえの
 美みあふ。は。廉夫人れんふじんも。少食せうじきのつべし。命婦めいふ真鶴まがづの忠臣ちゆうしん司馬しまた公こう
 の女むすめ見みて。夫人ふじんの。為ための。異母いぼ女むすめ。身み正ただしく。王女おんむすめの外戚ぐわいせきの。心こころを。此こゝ信しん
 かりなる。は。父ちちも。母ははも。あつ。年とし事ことの。給事きやくじ誰たれと。これ。及およん
 その忠ちゆうその孝こう。嘆なげ賞しょうを。給たまひ。餘あまり。あつ。れども。り。その志こころざしを。合あして。外あひ
 助たすけり。の。な。く。は。より。便びんな。く。ゆ。べし。より。て。某媒まがら約やくして。婚こん縁えん入い締とし。ひ
 あふんと。此こゝの。翼よくと。と。入いれた。壯さう佼けうを。擇えらび。とり。され。は。と。て。この。婚こん縁えん公こうと
 て。へ。倭人わいじん。忽たち地ぢ疑ぎひを。發はして。王女おんむすめの。おん。み。よ。め。し。く。は。彼かのの。夫ととを
 と。妻つまと。只ただ。一ひと夜よ。この。契ちがひ。を。結むすび。て。百ひゃく年ねんの。苦く樂らく。を。共ともみ。せん。こと。忠ちゆうは
 裂ひれ。女むすめ。を。い。て。い。よ。く。あ。つ。し。自こゝろの。為ため。な。ら。ぬ。妹いもと。夫せを。推おし辞やまし。と。あ。か。塔たかを。子

今も地球... 脚色本邦... 安珍... 成寺... 善曲... 小...

ハ近曾御より奉られし里之子小松壽と... 城の属村なる。姑場の里人陶氏が一子なり... 常也首里也交加して物学させお... 驟雨を避んとて。獠夫の家おま... かりて。この雨二年は官お他... ぶらん。このりの原来某が武藝... し語ひ課てゆへ彼同者とな... 狐竊も生きた。じゆなり。か... をいづく推辞ひべし松壽外あ... 給事せし中婦君あまひ王女... 侍

次避れお便あり。そのゆい... ところなり。廉夫人おびて... あり。まうお按司媒始して... 俵なれ。そのゆい。さも... らら頼め。いづくゆい... 推辞まうゆい。夫人國丹... かな。まうゆい。兼川ゆい... の退知。詰且首里にお到... ひ。かへ黄道吉日ゆい。み... けい。王女夫人お見を... 壽を速るむとて夫婦の... 侍

春見り長月貴高



春記 卷之四

陶松壽
浦添山
鬼蛇

本言 引月 無名 卷之四

去ころれ。遂に婦を嫁しむ。よりも添て彼天上の牽牛織女も。歳は一度の
 ああせのあれど。これ一夜の添掛が。あふ別れのじりめ。面をあらさる
 はしなれど。陶松壽も。真跡も。瘁する忠義の為と。おりて。胡越の
 ぶくに遠離つ。恩愛いよ。濃中り。送よ。ひ高れ。隙あり。十年
 あまろ。孤行る。終も。ある人。終く。りり。て。紫下。某生。再説。中婦。君
 を。矇雲。が。妖言。に。惑は。れて。子。が。生。む。の。あり。り。や。す。れ。と。て。正。し。め
 利勇と。共。通。し。る。月。飽。して。美。少。年。が。影。後。宮。に。養。ひ。つ。世。の
 機。を。省。と。その。為。作。飛。燕。三。宮。の。乱。と。あ。あ。は。ひ。光。明。千。人。の。垢。を
 搔。ゆ。似。たり。か。情。慾。の。恣。に。す。れ。ど。よ。れ。年。の。浪。む。り。堰。と。ふ。む。る。あ
 術。な。く。十。あ。ま。り。七。年。の。春。れ。梢。の。か。り。と。縁。と。姿。の。花。の。流。衰。と。
 秋。や。あ。る。根。ふ。られ。竹。の。よ。そ。ら。人。を。や。さ。く。五。十。ふ。道。く。り。に。た。れ

と。終。ふ。る。あ。る。言。ま。さ。し。あ。り。れ。尚。寧。王。と。その。性。墮。弱。な。る。あ。い。く
 老。ゆ。れ。民。の。訴。を。す。く。倦。く。國。政。を。矇。雲。利。勇。に。う。ち。任。せ。放。棄。
 控。山。を。事。と。す。れ。ふ。今。茲。ハ。い。よ。う。の。衰。敗。あ。ら。え。て。文。後。の。吉。又。公
 の。と。り。や。あり。けん。有。一。日。中。婦。君。と。對。し。く。夫。婦。過。世。あ。り。く
 て。男。兒。を。生。む。と。つ。が。齡。既。に。六。十。ふ。あ。ま。り。ぬ。れ。ふ。そ。中。世。嗣。が。定
 め。よ。と。三。司。官。ホ。が。諫。を。も。う。え。なり。され。ば。と。て。別。よ。子。も。あ。ら。は。王。女
 と。殊。を。失。ひ。し。る。を。懲。さん。み。中。城。へ。囚。籠。て。よ。り。黜。の。年。月。を
 控。り。彼。も。二十。あ。ま。り。あ。や。な。ら。ん。す。ら。ん。今。の。免。を。へ。し。耐。あ。り。し。
 往。よ。毛。國。鼎。が。や。う。世。し。は。し。も。理。あ。れ。が。王。女。と。位。が。傳。ん。と。あり。あ。あ
 こ。そ。で。ま。ろ。や。え。あ。ら。と。れ。な。れ。と。宜。り。と。れ。を。中。婦。君。眉。が。聳。れ。王。女
 の。世。ふ。あ。ま。り。の。年。年。と。希。ひ。ける。か。ら。いと。喜。しく。付。れ。し。こ。そ。も

ころのむと去歳の冬より身の重れをおげえ侍るを典藥正など
 も全く懐胎するんと定めぬと。かくれ付どお産ぬ子の。されど
 ありとん。つが。身も必ひ侍るねど當初蒙雲國師よりん。次相しく。
 王子誕生ありべし。とまうし。した。とかく國師も同定め大臣も。さえまじ
 多へしと。実し。中へ回答く。王良改て次の日蒙雲を招き。あし。
 利勇ふを召集合て世嗣のり。次議され。あ。豫て謀。あり。せ。り。ま。れ
 ば中婦君潛と。胸と。れ。預。あ。蒙雲と。中。その意。あ。返。く。席。あ。す。
 りて。ま。う。と。中。殿。下。お。ん。仁。慈。ぬ。く。して。寧。王。女。の。り。を。お。ほ。し。忘。れ
 ぞ。舊。の。て。く。世。子。と。し。ま。ん。ハ。理。ふ。於。く。あ。う。れ。べ。れ。と。國。の。あ。ふ
 ハ。甚。つ。も。故。い。う。も。と。な。れ。ハ。中。婦。君。有。り。ま。ひ。て。臨。月。既。よ。近。づ
 れ。ま。り。り。蒙。雲。年。暮。の。祈。念。空。一。か。ら。胎。内。の。子。子。權。者。の。後。あ
 りて。ま。し。ま。と。故。よ。氣。さ。生。平。あ。り。り。あ。り。ん。と。あ。り。て。人。の。懐
 胎。し。ま。ふ。を。あ。る。と。な。し。此。度。誕生。の。御。子。の。疑。ふ。べ。く。も。あ。ら。ぬ。王。子
 あ。く。在。ま。も。あ。ら。じ。が。経。を。け。り。ま。り。て。只。今。世。嗣。を。定。め。ま。り。後。悔
 その。詮。な。く。ん。欽。加。楠。王。女。あ。ま。ま。と。世。子。と。し。ま。ん。と。た。ハ。天。孫。氏。の
 正。統。と。この。時。お。終。り。ま。ひ。な。ん。極。て。い。ひ。か。さ。れ。り。あ。れ。と。彼。寧。王
 女。ハ。殿。下。の。子。子。あ。ら。ん。實。ハ。毛。國。將。の。花。生。な。り。廉。夫。人。宮。中
 へ。あ。れ。る。以。前。より。從。弟。と。ら。な。れ。ハ。毛。國。將。と。疎。う。ら。は。是。彼。遂。ハ
 密。通。し。懷。胎。し。て。い。く。程。も。お。く。殿。下。よ。り。預。て。寵。恩。を。う。け。り。子。を。産。り
 と。世。お。誇。り。縦。天。を。欺。く。ま。も。この。蒙。雲。を。欺。け。ん。や。か。且。ハ。志。を
 ま。ハ。毛。國。將。が。面。を。犯。し。て。諫。う。ら。ん。王。女。の。る。非。ハ。覆。復。し。ハ。お。の。れ
 が。子。な。れ。ハ。い。う。も。も。して。この。國。を。あ。ら。せん。と。ん。その。奸。計。一。朝。の。り。あ

ありて。ま。し。ま。と。故。よ。氣。さ。生。平。あ。り。り。あ。り。ん。と。あ。り。て。人。の。懐
 胎。し。ま。ふ。を。あ。る。と。な。し。此。度。誕生。の。御。子。の。疑。ふ。べ。く。も。あ。ら。ぬ。王。子
 あ。く。在。ま。も。あ。ら。じ。が。経。を。け。り。ま。り。て。只。今。世。嗣。を。定。め。ま。り。後。悔
 その。詮。な。く。ん。欽。加。楠。王。女。あ。ま。ま。と。世。子。と。し。ま。ん。と。た。ハ。天。孫。氏。の
 正。統。と。この。時。お。終。り。ま。ひ。な。ん。極。て。い。ひ。か。さ。れ。り。あ。れ。と。彼。寧。王
 女。ハ。殿。下。の。子。子。あ。ら。ん。實。ハ。毛。國。將。の。花。生。な。り。廉。夫。人。宮。中
 へ。あ。れ。る。以。前。より。從。弟。と。ら。な。れ。ハ。毛。國。將。と。疎。う。ら。は。是。彼。遂。ハ
 密。通。し。懷。胎。し。て。い。く。程。も。お。く。殿。下。よ。り。預。て。寵。恩。を。う。け。り。子。を。産。り
 と。世。お。誇。り。縦。天。を。欺。く。ま。も。この。蒙。雲。を。欺。け。ん。や。か。且。ハ。志。を
 ま。ハ。毛。國。將。が。面。を。犯。し。て。諫。う。ら。ん。王。女。の。る。非。ハ。覆。復。し。ハ。お。の。れ
 が。子。な。れ。ハ。い。う。も。も。して。この。國。を。あ。ら。せん。と。ん。その。奸。計。一。朝。の。り。あ

あふねど殿下ハ一点曉多んで王女を世嗣としさふく君若物の
 國神怒り先廟受まのぞして災降し珠を奪ひてとを妨
 ろひくろ。貧道とゆよりよく猜せれといへども明白あらはし
 形て。赤くろろに秘されど今日り一言と惜きて告をば
 かくく大事誤るし。その節のふん。さうさもひあはし人じ
 と実志申す政とれハ中婦君も。うら驚とる。おりして利勇ホ
 と面をみし。この不思議なるみだすくりのね。寧王女を毛國丹
 か花子あてありけれとい神ま。いして誰うのさ。廉夫人の賢
 かほる。毛國丹が忠臣やうせれ千仞の海と測れとも量かた
 世の中れ人の公の底ありとて舌振と。嘆息の當下利勇ハ膝
 をすくむと。膝雲に對し國師の明察疑あめら。いと王女母

子推移られ多ひて後を毛國丹も世の議論を悼んでや中城殿
 へ。あふね彼り王女母まんと討殺りのね。區として十年
 あらう。とや二昔ふ近き月日。いさば。過せら。いふぞや。その
 逞し。奸智やうて。まどて謀叛を真ごり。これいとおぼつなげ
 なり。といりせもあへど。膝雲儼然と形をあらため。この南風原ハ
 親方。柳勇。さも。毛國丹が謀反。精父といへども。いさ。氣さ
 頭。これ。これ。と。執。に。憚。亦。彼。不。宿
 望。全。果。い。と。も。廉。夫。人。宮。中。出。後。毛。國。丹
 日夜。潜。ち。淫。樂。耽。を。り。て。遂。に。懈。事。を。言。せ。せ。も。
 君王。既。老。人。ハ。世。を。辞。し。あ。は。け。の。なり。あ。う。を。往。あ。彼。を
 りて。王。女。の。傳。し。後。亦。王。女。と。廉。夫。人。を。國。丹。預。ま。ひ。これ

盗人小糧を齎かごとし。彼が世に憚りて中城殿へとあふべといふハ
 人の疑はしむとてなるが、実るやとありぬの沙をうらふんとあざき
 説示せん利勇ハいふ。呆且てるおけらし。按司黄帽官不至るまで
 驚た惑ひしつ所をあふべ尚寧王と。緯の茲を貸て呆るるや
 半晌むろのまとりて類ふ加えつ。只管に嘆息し。廉夫人毛國典
 が隠匿り國師のいふごとくなふ。その罪五逆ふ當り。さるあても
 王女死國典が子なりと。何をりて證據とせん罪の疑は刑を加
 ふはしるうらじや。と宣へば。矇雲々殿下慈悲の制度をりて。人々
 かぐしく罪しむる。願くハ一面の鏡を貸る。彼ホか舞淫の
 伴をうらて。おん疑を散らし。とまらぬあも。王鳥は。聴て里
 之子不仰て。大さやうなれ鏡をとり。ふし。これを中城の方へは。向

く殿の畫柱お掛にし。あへば矇雲やを。刃を起して鏡のは。うら
 歩まよりつ。まらぬか。貧道目今千里眼の法術をりて。國典を
 が隠匿を照つ。し。足はこれ。國王宮裡おあり。し。不昧取。鏡の鏡
 等し。時を定めて。商せし。とまらし。果て。鏡お對ひ加持。る。二遍
 君臣一育。これをを。且して鏡の面。赫奕と鮮明なる。明月乃
 昇れ。ぐ。世子廢殿の後堂。隈なく。う。これ。間毎く。も。む。し。さ
 らぬ。荒ま。これ。時ハ九月の上浣。あて。南海珠。お暖く。木芙蓉。華
 容。甚。恨。驚。といふ。渡鳥。枝。お。嗽。る。声。急。し。梅。花。を。じ。め。て。白。ま
 む。桂樹。お。雜。れ。鐵樹。お。名。も。令。て。冬。を。び。り。翅。ハ。緑。く。眉。白。れ。を。麻
 石。求。子。と。人。の。ゆ。ふ。子。を。石。求。讀。伊。石。求。子。莫。讀。史。の。諸。を。涙
 秋の庭。麥。種。下。く。へ。求。食。て。ハ。何。処。へ。落。る。紙。を。さ。る。この。月。の



中り中くに左右にえり。大息をとりしりたれ。これ暗愚也。賊
 婦逆臣は折らむ。三十年に寧王女を這奴ホが花生なりとまふに
 位をさへげんと思ひつるこそ悔しけ。利勇はしる軍兵を招て中城
 へ走向ひ。廉夫人毛國典のりもよう。寧王女が首を削る。信と
 こんせよといれたれ。仰れお智あるりのハ。矇雲が幻術なり。あはね
 る。鏡小らうして。君が惑し。疑ひる。威持は恐れ
 明白の論は。衆皆頓首して。まうに。毛國典一人に付
 んとて。夥の軍兵は。向らねん。踏次の煩ひ。只。穩便の制を
 をりて。それを召し。緯の虚実を。同く。多し。と。諫。か。王。語。りて
 ち。は。孰。遣。毛國典を召さへ。と。同。利勇が。は。を。ち。
 里之子陶松壽の公。武して。物。孰。なる。彼。毛國典。武藝

の。身。子。な。れ。も。その。不。義。を。憎。て。や。父。く。これ。疎。て。常。小。臣。が
 家。お。来。訪。も。又。提。牌。全。查。國。吉。ハ。國。典。が。妻。新。垣。が。從。身。なり。此。の
 故。あり。て。ふ。く。國。典。恨。れ。は。松。壽。潛。小。臣。お。告。る。ふ。あり。今
 この。兩。人。ハ。計。畧。を。授。て。中。城。へ。遣。り。毛。國。典。疑。ど。して。こ。ある。べ。し。
 と。啓。され。ハ。尚。寧。王。ご。ハ。松。壽。查。國。吉。に。密。謀。を。傳。よ。と。仰。れ。お。
 利。勇。ハ。懸。て。件。の。友人。を。閑。室。お。招。と。よ。して。仰。の。越。と。え。ち。し。
 して。し。あ。す。毛。國。典。中。城。を。出。ら。ば。津。辺。お。は。り。お。托。す。途。より。引
 入。し。松。壽。ハ。世子。殿。よ。走。り。と。て。王。女。廉。夫人。ハ。刺。殺。し。首。を。引。提。て
 取り。よ。よ。又。查。國。吉。ハ。直。よ。毛。國。典。が。家。お。推。よ。せて。這。奴。が。妻。新。垣
 と。その。子。ども。を。搦。捕。べ。し。加。勢。の。兵。士。ハ。捷。徑。より。陸。續。お。遣。と。こ
 ね。一。世。の。忠。節。の。付。お。あり。さ。し。く。ら。ち。ま。め。とい。そ。う。せ。む。松。壽

查國吉
中山侍
信録
二重湯
の餘下
ええ

查國吉一議あも及ど領堂して従者ハいと寔。馬上るが正
門より走り出く。二諸事おし並べつ。只官よ嘆息。既ち従者
の後とておれをえりて。松守竊中り。查國吉が嘆びとめ。牌金
牌金の查國。何とぞ。君王之く。矇雲が幼術。お惑され。且中婦君
が首各。注し。佞人時を。二細既お乱。王女を殺。忠臣を
害せんと。此國の滅んる。且父あり。吾侪官卑く。祿微。これ
を救ひ。却て利勇に役せられ。不狂人も走る。小使ら
豈嘆くべし。密語。查國吉。王女を殺。縁て
志を。矇雲。利勇。佞媚。か。直。縁由。彼人。告。諸
も。小世子。殿。権龍。村。王女。廉夫人。の。目。前

ふと陣設とてく。と。勇。一。回。答。か。松。守。の。こ。も
こそ。とう。白。馬。の。足。掻。を。早
め。中。城。を。望。ま。せ。去。ぬ。

第三十九回

浦添山に國典使者も達し
中山府に利勇忠臣も殺す

毛國典ハ。い。ま。ご。利。勇。ホ。が。計。較。を。志。し。君。王。の。王。女。を。世。子。ハ
ま。ん。と。て。矇。雲。利。勇。ホ。の。執。權。を。集。合。ま。し。今。朝。も。密。書。百。枚
の。陶。松。壽。が。告。げ。し。う。は。こ。の。海。飲。び。て。懸。て。縁。由。と。王。女
廉。夫。人。ハ。告。進。せ。緝。の。虚。実。を。志。し。ん。為。小。従。者。兩。人。ハ。首。里
里。へ。と。て。あり。け。る。が。こ。う。も。首。里。と。中。城。の。間。を。浦。添。山
の。麓。あ。て。兩。人。の。使。者。も。達。し。ぬ。當。下。松。守。查。國。吉。も。こ。の。り。お



毛國典が身且れをそと。声をかりま毛按司吾倚おん使と乗り
 つ。君王の仰あり。さほまは國典忙しく馬より飛下り道次ふま一宿
 不どに兩使のほより近く騎つけて。鞍坪小威儀うい緒ひ君王の仰
 あり。此度王女廉夫人や召えし。舊のごとく。王女を世子として位と仰へ
 ろんとなり。これあやうて。大臣諸按司と召集合て奉と議しなすう
 ぞと。さうくさうりゆくと相違はば毛國典謹ぶらけまなり。さう
 ひまふざりしが。只今首里へあはるふ。さうにておん使一行あひゆるこそ
 幸かたし誘ふ人といふ。その氣色満面お笑と令けく化念あへん
 か。松壽査國吉のいと苦じくて。利勇が計救とまふせまゆ
 とおひながら。後者おまはるふと憚り。明白あへえりごと。いま吾倚
 の是より直ふ中城殿へありて。王女廉夫人よ傳進ふとれ仰あれ

馬小内りとうら踏り。東西小別且つ。同五六町ゆた隔りし比松亭
 查國吉りうとも。鞭を鳴らして追蒐ふつ。毛梅司ちがし。歸り
 多入。まほりふべたるりあり。とほびうられ。國典曹氏引候して。葛地
 馳走とらふ。是彼の後者へ既ふ逢ふ後且つ。その隙は。兩人の
 壮校ハ。矇雲が鏡中の幻術中。婦君利勇が討殺。おらも。國典
 ふさ。や。又いふやう。緯既ふかくの如く。され。按司首里ふ紗
 ろ。や。忽地首を喪れ。とや。引くして。世子殿小権。おら。忠
 義の士を招れ。集めて。矇雲利勇とら。滅し。王女とせ。ま。ま
 じ。吾侪外ふありて。反間の討を行。逆賊を滅さん。の。踵
 め。ら。と。べ。う。は。猶。豫。志。あ。る。ふ。ら。と。い。と。信。中。う。み。り。そ。が。せ。毛

國典政をうら。掉。の。辺。ホ。從。者。再。々。且。と。て。あ。う。び。れ。と。ほ。ひ。候。し
 火急の危難を告。あ。る。あ。る。あ。は。日。月。地。小。陸。と。國。神。も。人。の。ほ。こ。と。成。
 憐。あ。あ。と。お。ほ。し。あ。る。あ。れ。罪。な。れ。は。し。成。い。ひ。と。う。ん。あ。も。せ。よ。
 世子殿小権。龍。討。手。を。引。り。て。防。と。戦。り。王。女。の。子。と。し。て。入。と。挑。こ。
 又。れ。ハ。臣。と。し。て。君。を。凌。ぐ。ら。り。と。罪。な。れ。を。い。ひ。と。か。ん。と。と。却。
 叛逆の罪人と。なり。なり。常。言。ふ。忠。臣。の。犬。と。あ。る。と。も。乱。離。の。人。と。な。り。
 と。ど。り。了。り。あ。の。足。が。死。と。べ。れ。日。形。り。沙。辺。と。ら。い。よ。忠。義。の。志。と。後。
 こと。ら。潜。ふ。王。女。廉。夫。人。を。落。し。進。ら。せ。と。し。暇。あ。ら。な。く。妻。子。ふ。も。瘡。
 の。赴。を。告。あ。り。て。禍。を。避。は。し。多。入。冢。子。鶴。ハ。十。四。歳。次。男。龜。ハ。十。二。歳。
 され。西。東。を。も。と。や。あ。る。と。父。が。孤。忠。の。苦。し。死。を。と。ひ。や。り。寧。王。女。乃
 お。ん。る。あ。ハ。同。胞。命。が。捨。よ。し。と。傳。へ。あ。ひ。ね。と。回。答。し。て。ほ。る。氣。さ。と。

なつりけで。法処は後者ホ。東西より喘く走り来り。同近くるりし。ハ
松壽查國吉ハ。ぬらび練ぬる。毛國將も。遂に馬の平首を
東へ引し。首里に投て馳去。查國吉つづく。目送りて。陶松壽
みらあや。毛按司ハ。寔に盖世の忠臣なり。これ彼人乃通家と。は
年取の恩義いと重し。命を捨てその子ども。鶴亀亦救つ。は
は迎ハ。中城殿へありて。王女と。廉夫人を落し。近し。便宜の地
小潜せぬれ。と密語ハ。松壽微笑。は迎ハ。あうべ。これハ血
氣の勇小と。かりて。かみしく。命ハ。預んと。あう。救ふべく。救ひ
進。せ。救ひ。さ。さ。て。己。か。ん。薪。を。抱。て。火。に。救。ひ。湯。を。り。て。沸。か
す。る。も。勞。す。れ。の。こ。め。て。切。あ。う。ん。や。狼。狽。な。か。な。後。ま。も。も。胡。懸
な。う。べ。し。ら。ぬ。查。國。吉。も。あ。う。と。大。怒。り。は。な。と。や。命。を。一。と。

言ハ。兩端小。あ。う。と。お。何。か。く。ハ。王。女。の。う。へ。も。又。か。り。と。は。し。さ。れ。ハ
ま。く。ま。か。い。と。め。て。彼。を。助。を。救。ん。難。義。お。り。所。詮。汝。と。此
処。あ。て。う。ち。果。さ。ん。あ。う。と。い。ま。う。れ。く。か。け。も。あ。う。と。氣。ま。あ。れ。を。
松壽ハ。此。も。豎。として。莞。尔。と。し。牌。金。を。と。て。か。く。ハ。思。慮。を。こ。は。迎。と
勇。を。り。て。恩。お。あ。う。と。ん。これ。ハ。智。を。り。て。忠。を。竭。す。り。の。なり。は。し。機。お
臨。ま。あ。う。と。あ。う。と。ぞ。ハ。矇。雲。利。勇。ハ。欺。課。て。王。女。を。救。ひ。し。り
か。じ。機。密。ハ。こ。う。再。議。と。さ。う。は。迎。と。これ。と。誓。果。て。何。の。益。あり
や。と。説。論。ハ。查。國。吉。忽。地。お。面。を。和。け。あ。う。と。と。應。さ。う。同。お
後。者。ホ。走。る。ぬ。れ。ハ。送。り。道。を。し。そ。が。して。美。里。と。浦。添。の。間。なる。捷
徑。小。馬。と。さ。う。め。つ。と。飛。あ。う。と。似。お。走。り。され。ハ。後。者。ホ。ハ。又。後。と。り。不。題
按。司。毛。國。將。も。重。し。忠。義。ぬ。控。こ。命。も。終。に。脱。と。ぬ。時。運。と。と。さ。う。ハ

それもまろくに。つれづれ言ひ死出の鳥。八千八声説はとて。され竭されぬ濡衣のしとも苦死世の中。乱とくそ忠の忠臣を不忠とも不忠ともいふ。君のこの土もまろりて。悪人あたら減し。王女成世よまら。らめ。とろろ一つお唐鞍の。ろろろろ名惜の。あんと。鼻も。ね胸や月毛の駒ふ。細短くろろ。中山府へありつ。正門は馬乗放ち。あり孰つ。龍宮城の正殿へ。とす。と入れを待設。ち鞍の筑登之帷幕を撥。と跳。出鎗閃して左右より。膳ごとと刺徹。せ。國典その鞆を握り。とめて。

つがてある。花のまの。こと。はや。と。こと。け。ま。ま。ま。と。て。ろ。そ。も。ま。け。れ。ろ。ろ。
 「つがてある。花のまの。こと。」
 「そのつもと。ま。ま。」
 「ま。ま。ま。ま。」
 「ま。ま。ま。ま。」
 「ま。ま。ま。ま。」
 「ま。ま。ま。ま。」

と辞世の一首を派。れ。も。果。ど。又。一。人。後。方。より。劔。を。抜。て。走。薙。り。忽地首。み。ら。ら。落。し。ぬ。嗚。呼。痛。し。ら。る。も。國。典。その。忠。の。ま。古。人。ふ。恥。と。勇。け。し。て。且。武。畧。あり。顔。を。犯。して。君。成。諫。め。真。言。し。て。倭。人。成。枝。王。女。廉。夫。人。の。危。窮。を。救。ふ。と。数。回。國。の。安。危。存。亡。り。て。已。が。任。と。ま。つ。れ。も。暗。君。終。ふ。用。ひ。ひ。ど。漢。言。志。づ。く。行。き。く。忽。地。お。こ。れ。を。誅。し。つ。さ。れ。ハ。天。日。こ。れ。が。み。小。園。く。鬼。神。こ。れ。が。み。泣。つ。ね。え。れ。あ。の。琉。球。語。なり。聘。使。記。ふ。つ。が。て。あ。る。花。の。ま。の。ま。は。中。と。ご。ろ。の。令。け。る。花。の。露。を。帶。た。れ。た。花。なり。と。し。め。し。け。ま。ま。や。と。て。ろ。そ。も。ま。ろ。れ。ろ。ろ。消。な。の。その。彩。も。こ。れ。あ。ら。ん。や。人。の。命。も。あ。り。形。り。と。ま。常。を。觀。する。こ。ろ。言。葉。の。和。奇。の。句。調。お。よ。く。稱。て。三。十。一。字。と。な。り。ぬ。る。こ。そ。殊。勝。な。れ。か。く。の。筑。登。之。木。毛。國。典。が。首。と。ろ。ろ。獻。呈。ハ。利。勇。こ。れ。を。銀。の。皿。小。装。て。群。臣。お。は。し。示。し。



逆臣國將が隠謀來廉夫人

生の持赤が討ちあへ陶松壽うけあつり國將が妻と子どもらなへ

査國吉小仰て搦捕らし多人ハ聖慮やうやうこゝろ安しおのく

祝しをりゆへとほびりて。おとろくにはし示せ。三司百官駭然と

驚き怕と逆賊立地は滅て邦家まなく泰平ならん公私は幸

これおするゆはしとぞ洩ひぬ當下尚寧王ハ矇雲小對ひ國師嚮

小中婦君ハ既ハ有えうとといひ。いつの程お分曉るへた審田指示

ゆへと仰とハ矇雲志じうら業じつ指を屈てまうひやう中婦君の

産とやハこの月の中おあり。はしや違くとも四五十日ハさへう産

生の心子王子おてまはせなれハ年月のおん足りて。ここと飲

びおぼまうらめと啓されハ王斜さうに欣悦し。さうさ今より母子平

安の加持あるとて叮嚀小宣つされハ矇雲又まうひやうハ平産の

おん祈ハ仰を待ばして年月これを進行せり只忽お志がとれと王女

廉夫人の討ちなり陶松壽ハかひぐり壯佼なりといへとも彼のこ

ふらら任し多らんハなほおりこほし。そや利勇ハ駭の氣登之がさし

副はと松壽を助け王女を討しめりしとまうひふそ尚寧王

げおめと白鳥びく。そのは右と仰とハ利勇欣然して命を宣示家は

もまろくハ歡會門のほとりあて鎧とろくさうくと投被馬上あて腰

帶結びて鷲馬地小走りおまハ早雄の荒登之ホ紫中官ハ後まうとて

おのく械器ハ引提つ喘くぞ追ひ續ね

第四十回

涙を沃く松壽 廉夫人ハ撃
神代顯て白縫 寧王女を祐

里之子陶松壽。捉脚金查國吉ハ浦添山の麓也。毛國吉と目送つ。
 駿馬小白泡とほして中城へ馳ゆく。行小後者ハ途よ後ま加勢の兵
 士とゆふと到らざり。この隙小藩をべと。查國吉ハ毛國吉の家へと
 入り。門内は潜り入りて。門もせと。園の木を遠りつ。奥へくあり。後
 小室王女廉夫人ハ桂華殿の孫廂小桂の花をちら。瞻ておれせしが。
 緯のる作いと蕭々ゆて。生つ。只一人。竹のつ。忽地ハ外面。又んく
 くらいう。松壽がとありてゆ。し。啓され。同小松。来ハ中。て。櫛の下。拜
 伏し。言語ハつて。ゆ。小落涙。をりける。代廉夫人。問して。や。あり
 ん。とおぼせ。か。近く。ゆ。びの。ば。て。宣。の。や。あ。づ。り。り。陶松壽。汝
 等。結。と。智。姻。せ。夜。只。一。と。ひ。え。つ。の。と。ゆ。て。夥。の。年。代。に。し。し。ん。ん。ん。

王女もつ。か。身。も。面。忘。れ。し。小。年。及。恋。し。と。ま。小。良。人。な。れ。ば。こ。そ。等。路。
 の。と。や。足。音。あ。て。も。あ。り。つ。ん。ぬ。さ。て。も。連。忙。し。く。あ。る。る。ゆ。い。し。く。と。ろ
 り。と。ま。し。都。の。い。う。る。る。分。野。小。や。君。王。ハ。い。う。安。寧。に。在。る。と。欲。と。同。い
 る。へ。バ。松。壽。中。り。や。に。此。を。擡。賊。臣。宮。中。ハ。充。満。て。世。ハ。と。や。季。子。な。り
 て。ゆ。を。い。め。より。中。り。せ。バ。ぬ。此。と。く。な。り。尾。ハ。箇。様。と。く。と。と。矇。西。の。鏡
 中。に。奇。怪。の。影。を。ら。り。と。王。女。ハ。夫。人。と。毛。國。吉。が。子。な。り。と。い。ひ。し。し。し。
 松。壽。と。查。國。吉。小。仰。ぎ。國。典。を。召。し。し。ま。ゆ。と。これ。と。浦。添。山。の。麓。に
 て。行。ゆ。ひ。判。勇。ホ。が。計。較。を。告。ぐ。直。ふ。り。く。と。諫。か。と。國。典。ハ
 死。を。決。し。て。首。里。へ。参。り。し。り。一。五。一。十。代。父。え。ゆ。け。查。國。士。ハ。毛。國。典
 が。妻。と。子。と。も。と。救。ん。と。て。その。家。へ。と。あり。つ。判。勇。ハ。さ。ら。に。妖。術。を。逞
 くと。矇。雲。も。吾。儕。を。毛。按。司。の。間。者。と。な。あ。ふ。直。よ。中。城。殿。へ。走。せ

ゆれり。王女と夫人のおん首代誓をなれ。捷徑より加勢の兵士を遣
 せし。とり入り。人おちれぬ間。便宜の地へおん侍はる。りりかへん誘
 めんとし。そびし。もうせ。廉夫人へ王女生。誘と面をぬけ。こへとも
 いう。あ。とむ。り。に。呆。と。く。ま。じ。の。意。も。え。せ。と。を。り。流。る。涙。を。拭。ひ。
 あ。あ。い。う。な。れ。バ。マ。ガ。オ。オ。あ。か。ひ。も。な。く。天。神。地。祇。お。捨。つ。と。て。
 お。ひ。も。う。け。ぬ。濡。衣。へ。胸。の。ひ。ご。と。れ。中。婦。君。の。姫。之。角。組。の。雅。芦。の。ゆ。
 と。い。は。と。る。濁。江。の。ふ。く。れ。伎。倆。と。曉。め。ら。と。王。女。の。心。子。よ。あ。じ。と。て。殺
 せ。と。仰。る。父。王。の。心。誠。こ。そ。意。を。は。ね。と。て。も。か。く。て。も。脱。走。さ。れ。命。なり。
 せ。バ。マ。ガ。オ。オ。の。刃。に。切。れ。紅。木。の。赤。れ。を。見。せ。侍。ら。ん。松。壽。生。活
 いう。ゆ。ゆ。して。王。女。を。助。け。進。ま。せ。よ。と。て。声。を。惜。ま。泣。ま。り。理。た。れ。と。理
 と。も。い。ひ。ゆ。ゆ。と。夫。婦。を。ま。ま。く。に。慰。め。ま。う。せ。寧。王。女。も。双。眼。は。涙。を

合。と。母。の。こ。い。う。て。殺。ま。る。と。罪。な。れ。を。い。ひ。と。う。ん。と。て。脱。走。も。果。ぬ。ゆ
 を。躲。さ。り。不。孝。の。人。の。不。孝。なり。毛。國。丹。が。死。を。極。め。て。首。里。へ。お
 と。れ。志。す。れ。も。か。く。こ。も。め。え。た。れ。恨。の。あ。じ。歎。と。ま。あ。る。マ。カ。オ。も
 是。期。し。て。竹。り。と。い。ひ。勵。し。て。ま。ま。く。お。駭。と。ま。あ。る。氣。入。ら。れ。ば。松。壽
 を。さ。ら。誘。お。暗。し。て。声。を。り。泣。け。お。い。し。ま。せ。と。も。こ。も。こ。の。婦。女子
 の。見。識。なり。死。と。る。代。孝。と。お。ち。と。あ。や。賊。臣。を。滅。して。民。を。救。め。り
 王者。の。孝。心。再。て。討。手。の。大。勢。を。向。と。ま。な。い。う。は。して。脱。走。ま。る。
 い。ひ。か。ひ。ま。し。と。諫。つ。賺。し。つ。夫。婦。を。ひ。び。く。扶。掖。て。後。門。より。落。し
 ま。か。せ。ん。と。旗。さ。れ。お。こ。の。お。い。形。容。お。て。の。便。な。し。と。せ。ん。か。く。せ。ん。と。て。
 松。壽。且。く。尋。思。し。つ。究。竟。の。こ。り。こ。そ。あ。れ。ら。の。姑。場。嶽。なる。山。神
 お。ふ。て。姑。場。勢。田。當。間。伊。集。嶋。袋。の。里。人。ホ。と。ま。ま。ぐ。の。打。扮。し。て。御

所近くわたりまつる代。嚮かよれるとれおんてり。その箇様こほ
 て。廉夫人のおん供せん。其の如く。此の打扮て。寧王女の供せよ。
 とくくといそがしつ。大床お挂られ。花藍をとりおろして。廉夫人
 お肩し。その殿内なる。先王朝の本獅子をうち織り。
 王女を後方お隠し。入と主後四人。お祀のなり物。打扮て。巷口を
 投て。狂ひ出づ。抑環球。舞曲俳優あり。太平調。長生
 苑。芷蘭香。天孫太平歌。桃花源。揚香。壽尊。公。翁。ホの雅
 樂。ハ。王宮。ま。て。ハ。奥。行。ま。る。の。許。さん。の。餘。ま。舞。あり。花。索。舞。
 あり。又。拍。舞。武。舞。毬。舞。捍。舞。あり。花。索。舞。ハ。小。童。二人。以。ま。造。花
 を。い。ま。錦。の。半。臂。を。被。て。花。藍。を。肩。か。けて。舞。廉。夫。人。と。ま
 り。これ。打。扮。ね。又。毬。舞。ハ。小。童。二。人。五。三。の。紐。を。被。て。金。の。毬。の。四。方

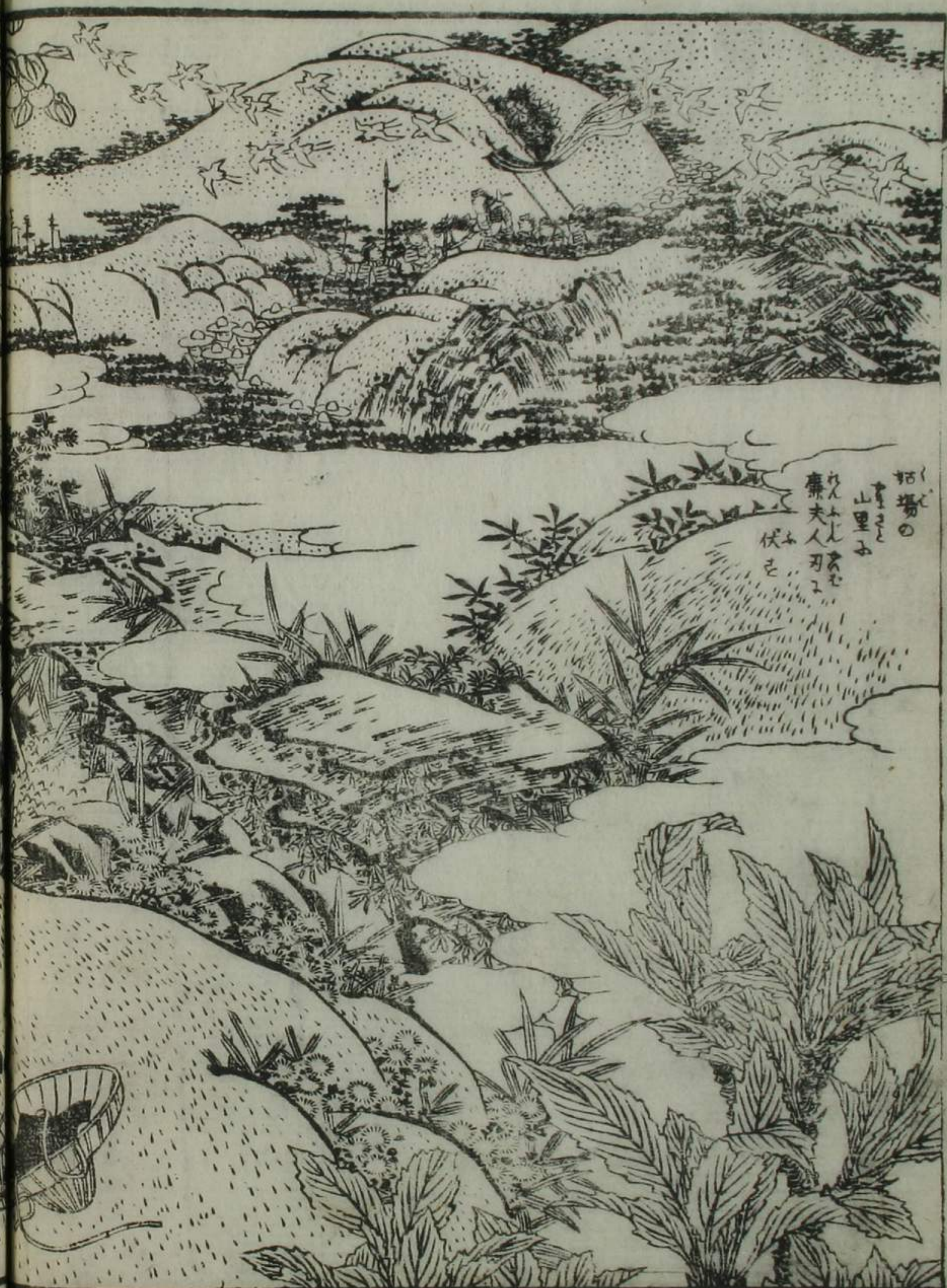
ふ。鈴。を。背。朱。紅。紐。の。し。と。長。と。び。り。て。左。右。に。ま。て。舞。形。が。二。匹。の。木
 獅子。と。狂。て。種。の。曲。成。ま。る。と。其。奥。の。り。王。女。の。踏。この。舞。童。打
 扮。ね。又。竿。舞。あり。是。田。樂。の。類。也。又。扇。曲。當。節。曲。あり。これ。ハ。男
 舞。白。拍。子。の。類。ま。る。べ。し。以上。間。切。毎。の。城。隍。祭。あり。か。ま。り。奥。行。ま。る。と
 かん。間。話。休。題。廉。夫。人。ハ。王。女。の。踏。お。ま。ま。陶。松。壽。お。扶。掖。ま。る。姑
 場。の。う。へ。高。の。折。り。野。嵩。の。か。より。軍。兵。二。三。百。馳。お。馬。煙。と。蹴
 ま。し。関。が。咄。と。揚。り。松。壽。ハ。これ。を。え。り。て。大。馬。に。討。ま
 の。大。軍。と。や。近。つ。れ。ね。し。と。ま。る。と。ま。り。し。も。め。ね。よ。又。姑。場。の。山。間
 より。野。田。ホ。發。起。ね。と。お。ぼ。く。貝。証。の。音。車。以。然。り。ま。て。ハ。四。方。お
 敵。を。ら。り。つ。この。い。う。れ。せん。と。講。者。と。ゆ。く。も。え。回。り。ぬ。る。も。か。へ。て
 う。羽。の。夜。の。話。子。成。ま。る。ハ。殊。と。ら。廉。夫。人。も。この。景。迹。お。今。ま

ユバ樹 樹の録 樹の高 三丈葉大 中一九月 音果の如 一樹中 どれあり 十となく たり

から。とあひさめて。古巴樹斯漢名の樹蔭ごかげふす。白しろやよ松しょう時とき討うて
の軍兵ぐんべい彼此たがひ。元満げんまんうれの寧王女ねいおうむすめのうへい。公こうめとは。母ははが首くびと刎き
て。討うての大將軍たいしやうぐんあえせよし。あゝは一方いちやうの圃ほりて。王女おうむすめハ虎こ口くち
脱だつ且かつあらん。今いまさう躊躇ちゆうちゆうこころ。と雪ゆきもろかりた項かたをさし伸のび。帝ていを
うち合あしてこころ切きと。いりねむりや花藍はなぞの。花はなよりりり余あまある。
松しょう時ときハ阿あ呀やと夜いよても。うらみおとす。いづつとも。夢ゆめともこころね世よの
中ちゆう小孝女せうこうむすめ節婦せつふを守まもる。君きみ真物まものハ在あり。我われ余あまと限かぎり。防ぼれ戦いくさひ
敵てきは首くびをさう。くとも。それら夫人ふじんを好うむ。切き名なくしてりて。行ゆく
や。とむりめてハ寧王女ねいおうむすめも。とも。あや討うて。あらん。とやせは。かくや
せは。と公こう一いつつ。女むすめ定さだめ。子こ。腸ちゆう絞しやくる。油あぶら樹じゆの梢こぼ瞻あまて。忙いそ然ぜんと。廉夫れんぷ
く。とえりて。あめし。何なにとて。かく憶おぼえ。とされ。こころ。あも。おぼ。と

つせ。王女おうむすめをさへ好うむ。せむ。忠ちゆうとやらん。我われとやせん。緯い後ご且かつてハ悔く
とも。ひ。な。し。と。い。そ。が。な。れ。と。こ。ん。と。ハ。近ちかく。討うて。軍兵ぐんべい脱だつし
つ。細この魚いさな主ぬし。犬いぬ自物じぶつと。牙くはを。な。し。果はる。も。忠ちゆう義ぎと。う。ハ。何
厭いとふ。と。と。あ。ひ。え。て。劔けんを。閃ひらと。抜ぬ替かせ。と。四よ十じゆうの。人ひとを。六むの。花はな水みづ
室むろの。檜ひのき老おい樹じゆと。ハ。ま。ご。え。え。う。け。け。ら。り。け。う。う。人ひとより。もう。う。う。人ひとの。
胸むね若わかし。さ。い。や。は。し。つ。祭まつり祀いの。弁ひら子こ。ふ。は。じ。ら。ひ。て。後ごハ。う。り。物ものし。を。
今いま生なまの。別わかれ。と。ハ。王女おうむすめも。あ。わ。ら。し。ま。さ。う。ア。ん。後ごの。歎なげき。と。あ。ひ。か。る。今いま我
小物こものを。お。り。し。そ。と。く。う。と。と。い。く。と。と。ハ。励おとされて。い。と。な。は。靡なり。
腕うで定さだめ。なく。又またと。撲う地ちと。さ。う。流ながし。尻しり居か不ふ控くわうと。裏うらを。胸むねと。ひ。つ。と。
陣じん鉦かねを。音ねあ。け。け。と。目めあ。は。え。ね。敵てきハ。あ。ま。し。と。廉夫人れんぷじんハ。あ。ら。る。
劔けんを。取とり。て。刀やいばま。と。入い袂たもと百ひゃく合ごう。う。う。あ。ら。る。う。う。襟えり上かみへ。つ。と。ね。と。く

春説子張月續新編卷之四



招場の
山里の
藥夫人の
伏の

林説子張月續新編卷之四

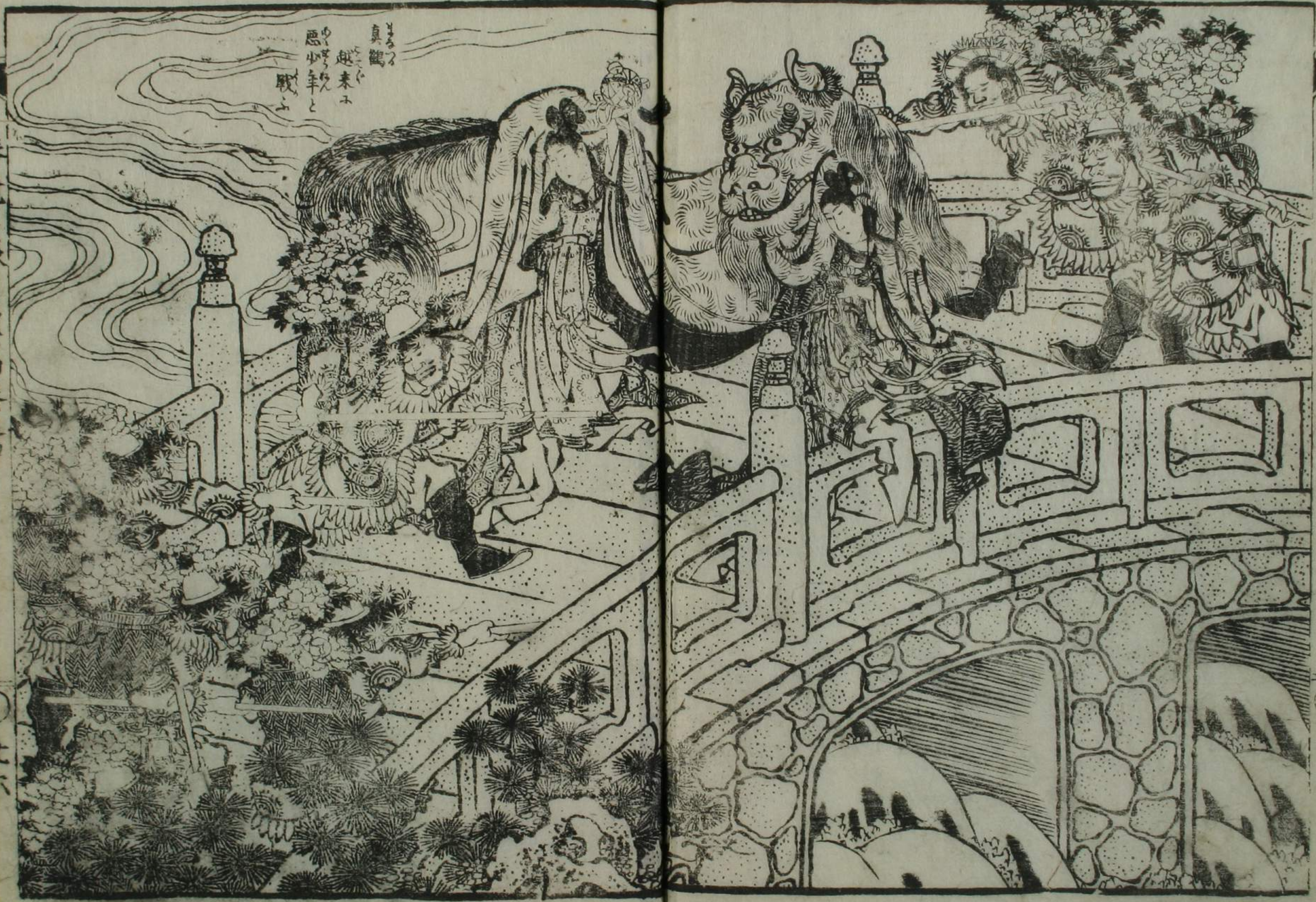
十三

引多入の松葉のまきく。おん首級をとりて。桂の袖を引断離。涙と
 とも子押包て。懸く樹蔭を走り出討手の氏よりてゆく。利勇ハ
 床几小尻をうけ。殿の筑登之。左右よま。ほび入直。對面と當
 下松葉の雄多。小廉夫人の首級を抱。恭と跪。某衛よりハ一
 騎世子殿小馳向ひて。矢庭小廉夫人ハ刺殺。おん首級をとりてま
 めぐるその隙。寧王女ハ命婦真鶴を移。後門より脱去。是り。さ
 小よりて彼此を索遠る折。南風原の親方。柳勇討手の大将と。と
 ちづ。馳向ひ多。は。び。え。は。く。は。の。為。体。を。注。進。廉夫人のおん首級
 を突檢。小入と。と。て。ま。あ。り。お。り。小。王。女。ハ。と。や。遠。く。滿。延。多。ひ。ん。
 一方の田代と。て。その兵士と。某。預。多。り。忽。地。小。追。苗。び。と。信。と。て。
 夫人の首級を。と。し。お。せ。ハ。利。勇。ハ。筑。登。之。て。受。と。し。取。の。如。く。突。檢。と。

これを首里へおろりの不。さて松壽小對。り。さ。既。小。廉。夫。人。ハ。討
 ち。と。り。し。も。し。ま。ご。王。女。の。首。と。ん。ご。れ。が。う。ぐ。ま。く。この田を。と。ら。じ。
 王女ハ。嚮。小。祭。祀。の。祓。り。お。し。打。扮。弄。童。ホ。ら。ら。難。り。て。同。切。を。お。り。
 と。出。り。の。の。あ。ふ。よ。ん。て。このは。う。り。な。れ。悪。少。年。ハ。謀。を。授。り。て。
 その往方。ハ。穿。鑿。と。し。れ。ハ。且。く。この処。小。屯。して。查。國。吉。が。音。耗。を。給。
 る。ん。油。断。る。王。女。と。追。蒐。て。討。苗。よ。と。出。る。隈。ま。く。指。揮。一。る
 小。と。松。壽。ハ。か。が。て。辞。別。と。又。姑。場。を。投。て。走。去。り。れ。か。は。し。ほ。ど。ふ
 寧王女ハ。さ。の。路。小。扶。掖。と。魅。弄。小。打。扮。て。主。後。木。獅子。み。ら。ら。被。た
 里の徳角。少。ま。ら。ひ。つ。姑。場。嶽。の。北。の。と。懸。末。と。投。と。落。る。ま。ふ
 浩。処。小。中。城。な。れ。悪。少。年。ホ。錦。の。半。臂。小。免。を。ま。し。て。ゆ。り。く。推
 取。卷。獅子。小。し。ある。免。の。王。その。國。王。の。子。と。偽。る。寧。王。女。ハ。擁。擁。と。

賞錢ハ乞小仕とて。と紫中官柳の仰をうけ。迹の祭事ありぬ間と。
 俄頃脚多下花索踊花の兄とらまる魁て捍弄んせん。其獅子
 貸せと異口同音おほびくけて金箔とる捍棒を振廻して打てか
 け。ハ寧王女後方お圃ひ丁と受てのいやね。獅子は牡丹
 の落花狼藉故とを打て谷落し獅子の子おし洞返し。左右撲地
 し投除ればこへ打ちしと競ひうつ。八方より打たに獅子の真額
 打裂と半面あつとさ。さの袴ハ布撥捨て莞尔とし。うとせ糸と被
 踊被られてこへ止んや。その圃ふ處とさくも。王女は猶もさうん
 と。獅子身中の蛆虫も。劍の舞れ手一奏んせん。可惜命を失
 ひそ。こあざと笑てまうりたれ。女とおひ侮りし悪少年ハ大に
 怒り。さてもほげたはほざいとて。あれ打倒せと散動とく。又閃と

捍棒劍を抜て切拂ひ右ふ當り左は柱縦横を碍ふ挑と戦ひ。
 二人丹手と負し。二人を矢庭に破伏し。あられとさ。そのさ
 鉄石小あつたれハ肩を打し腕を折し。勢ふ當りか。株
 小踏を破と轆へハ衆皆得り。と棒より直し乱打し打程お憐むべ
 真鶴ハ肉破と骨碎け。今宵ぞ死出の山蔭を越来。露の露
 消しける。寧王女ハこの形勢お必死と極めて走りも外と。生
 と憐みて吐お涙はし。とさ。一人つと跳か。髪を懸く。引
 倒せ。又一人の悪少年。緋切てもる海放さ。れ。苦落が劍撥取て。
 王女の胸前へ閃し。吐嗟目今替れ多ひぬ。と見え。拵ら。一團
 の烽火空中より花より。王女の懐へ入ると有。王女の岸破
 と刃を起し。忽地劍を奪ふ。とつて二人が首打落し。倍とふ。



真觀
起來
應
殿

春
月
廿
二
日

本
言
日
別
人
繪
卷
二
五

十
五



青龍



白虎

朱雀

王女を祐ぐ
 白虎の
 天鹿
 思少年本を



まてまのその形容に似せしめ柳眉を翫まれば星眼尖く百
万騎の大軍をもおそれの恐れなきに残るものども大さか
駭とこ不審王女もの物の憑りておぼゆるぞその御の
鬼の狐の名告れく同せも果と王女の刃の血を押しつ。これを
左のふりて南海孤嶋の賊民も告あすれ名あひねど
り生残りのものもあへば耳底よごめおれて後の世れ口碑傳よ
これは大日本清和天皇九代の後胤六條判官為義の八男鎮西
八郎源為朝ねしの嫡室肥後國阿蘇四郎平忠國が女兒なり
けれ白縫姫が亡魂なり。これ近曾夫ととも小渡海の船中風濤の
難あつて身を海底お投とりども其魂この琉球に漂泊し
るに夫を俟て父。あつる寧王女ひじりる良人八郎ねしと

一朝値遇の縁あれ且くこの身體を借りて良人と子どもも
いひくし。その創業を捕んとんかれハ王女ハして王女ハあつて
白縫はして白縫おろしに孝女と節婦と合體してある時ハ王女
より。又あれとれハ白縫とらん今其時あるは仇を報じハ誰うこれ
を實とせん其知る退そといれすとつ。花鳥の如くおれうて前よ
まはれ二とく。腕向騰躍ひなく。むすぶんと破めハ悪少年ハ
中へく怕れく。外んとすれとらし神ハ引返され。輾轉起んとする
刃丁と破る。或は隻手打落され。或ハ膝を薙けられ。まは命助
れりのも深疾負ねハなりけれ。このとれ日も暮れく。身ハ
躲そみ便あれハ王女ハ少年ハが先を去り取て。戴れ桿棒を
突ます。祭祀の舞臺が。おろり後れく。いとくひしく

こゝらへは。女お稀うすなれなり日ひ纏まとの亡な魂たまお導みちすはは因よ心こ納な嶽たけおマケ入いり
 の山やまの越こ来きの北きたよりあり。時とき方かた小こ大おほ日本にっぽん人ひと白しろ皇み八十はち代だいの天あま子こ高たか倉くら院いん
 の御ご代しろありしゆゆ安やす元もと二年に丙ひ申ま秋あき九月く二に日にち也なり

椿説弓張月續編卷之四 畢

